

## 第4回 天然アユ生態調査実行委員会議事要旨

### 1. 会議概要

○日 時：平成29年6月27日（火）13:30～15:30

○場 所：豊田市職員会館3階 第1部室

○出席者（規約の名簿順）

- （アドバイザー）高橋 勇夫（たかはし河川生物調査事務所 所長）
- （アドバイザー）村上 哲生（中部大学 教授）
- （アドバイザー）内田 臣一（愛知工業大学 教授）
- （アドバイザー）赤堀 良介（愛知工業大学 准教授）
- （委員長）加藤 重雄（矢作川漁業協同組合 代表理事組合長）
- （委員）新見 克也（矢作川天然アユ調査会 会長）
- （委員）松山 康忠（国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所 事業対策官）
- （委員）中村 公要（愛知県 豊田加茂建設事務所 河川整備課長）
- （委員）早川 匡（豊田市役所 河川課長）
- （委員）中川 啓二（豊田市矢作川研究所 所長）
- （事務局）豊田市矢作川研究所

○議 事

- （1）前回議事録の確認
- （2）昨年度の調査報告（資料1）
- （3）今年度の調査内容（資料2）
- （4）アユの遡上状況（資料3）
- （5）ソジバにおける実験の進捗状況（資料4、5）
- （6）矢作川産天然アユの産卵環境改善（資料5、6）
- （7）その他
  - ・ソジバにおける杭の位置について

○配布資料

- ・資料1：平成28年度調査報告
- ・資料2：平成29年度調査計画書
- ・資料3：明治用水頭首工における稚アユ遡上数
- ・資料4：アーマーコート化の解消によるアユのなわばり行動の回復の試み
- ・資料5：研究計画書「天然アユのなわばり行動の回復と産卵場の創出」
- ・資料6：矢作川産天然アユの産卵環境改善

## 2. 議事録要旨

### (1) 前回議事録の確認

議事の確認をおこなった。

### (2) 昨年度の調査報告

資料 1 にもとづいて報告をおこなった。

### (3) 今年度の調査内容

資料 2 にもとづいて説明をおこなった。

### (4) アユの遡上状況

#### ■事務局説明

事務局が資料 3 をもとに今年度の遡上状況を報告した。

#### ■主な意見等

昨年と比べて大幅に減った原因をどう考えるか。普通の川だと資源が増えたら 1 年で元に戻ることはない。

⇒事務局：はっきりとはわかりませんが、河川に問題があると考えています。あと隣の豊川で昨年度アユ仔魚の流下数が大幅に減少したと聞いているので、これも遡上数の減少に働いた可能性があると考えている。

### (5) ソジバにおける実験の進捗状況

#### ■事務局説明

事務局が資料 4、5 をもとに報告した。

#### ■主な意見等

礫置き区の底生動物について、6 月 13 日には造網性トビケラのヒゲナガカワトビケラが優占種となっていた。アユの定着と連動するかもしれないと考えており注目している。

矢作川の付着藻類の現存量を他の河川と比較すると、矢作川は飛騨川の 10 分の 1 の現存量しかないなど少ない。同様に天竜川も少ない。メカニズムははっきりしないが、ダムが存在が影響しているのではと思う。クロロフィル *a* 量当たりの生産速度を出してはどうか。

潜水調査でなわばりアユの判定はどうしているか。

⇒事務局：他のアユを攻撃する行動がみられたかどうかで判定しています。

アユの生息密度は礫転がり区のデータも必要ではないか。礫が転がる事前のデータとして。

⇒事務局：2本の縦断ラインに沿って観測しているので、今後もしっかりとデータをとっていきます。

映像を見る限り、礫置き区は相当フラットな環境になっている。対照区にあるサイズの礫も投入して起伏のある環境にした方がいい。あと一度も出水がないので、礫がまったく動いておらず不安定な状態になっている。この状態もアユは好まない。

⇒事務局：了解しました。起伏の状態を数値化する方法はあるでしょうか？ライン上での垂直方向の振れ幅などを記録してはどうか。

垂直方法の振れ幅を測る方法がある。

投入した河床材料のサイズのデータはとっているか。映像の感じだと増水して毎秒500トンの流量になっても投入した礫は動かないのではと思う。

⇒事務局：投入しなかった礫が残っているので、サイズを計測します。

クレンジング効果をみるのであれば、今後は10-20mmぐらいの小さな河床材料も入れながら検証した方がいい。

⇒事務局：了解しました。

短期間でコケ植物が回復するのはどういうメカニズムか。

⇒事務局：配偶体の生長が早いのではないかと考えている。

## (6) 矢作川産天然アユの産卵環境改善

### ■事務局説明

事務局が資料5、6をもとに調査の結果を報告した。

### ■主な意見等

藤井床固上流の河床勾配は確認したか。

⇒事務局：確認していない。

矢作古川と本川の流量比はどれぐらいか。

⇒事務局：1対6ぐらいと記憶している。

調査方法の問題で、流下数が大幅に減少しているかもしれない。ネットを曳く位置を少し変えるだけで採集数が大きく変わることがあるので。

⇒事務局：検討します。

(7) その他

ソジバで右岸際の実験区の境界部分に打ち込んだ杭の位置を再度確認してほしい。測量した位置からの距離がわかるようにして。10センチ以内の精度でとらえたい。

⇒事務局：了解しました。

以 上